令和6年4月1日
通巻 No.139
浄土宗
大阪教区布教師会

みちびき

阿弥陀さまに
いのちをあずけて
いきてゆく

「本当の幸せとは」 ―浄土宗開宗850年を迎えて―

泉北組　安楽寺住職　前佐哲也（大阪教区布教師会 監査担当）

4月8日は釈尊降誕の（誕生を祝う）法要が全国各地の寺院で営まれます。釈尊は今から2500年以上も前に、インドの地で誕生されました。釈尊は、「人間として生まれてきた以上は、誰もが幸せになりたい」と願う一人の人間でした。

釈尊は、29歳で出家されてから、「どうすれば人は幸せになれるのか」という問いを抱き続けられました。そして、35歳で悟りを開かれ、仏陀（ブッダ）となられました。仏陀とは、「目覚めた人」という意味です。

釈尊は、悟りを開かれた後、45年間にわたって、「人は、どうすれば幸せになれるのか」ということを説き続けられました。

釈尊の説かれた教えは、「仏教」と呼ばれ、現在では、世界中に広まっています。

浄土宗は、釈尊の教えの中でも、特に「阿弥陀仏の本願」を説かれた「浄土三部経」を根本の経典としています。

「阿弥陀仏の本願」とは、「すべての人を救いたい」という願いです。

阿弥陀仏は、「すべての人を救いたい」という願いを持たれ、その願いを実現するために、「南無阿弥陀仏」という名前になられました。

「南無阿弥陀仏」とは、「阿弥陀仏にすべてをおまかせします」という意味です。

「南無阿弥陀仏」と称えることを「念仏」といいます。

「念仏」は、誰もが称えることができます。

「念仏」は、「阿弥陀仏にすべてをおまかせします」という意味ですから、「念仏」を称えることは、「阿弥陀仏にすべてをおまかせします」という意思表示をすることです。

「阿弥陀仏にすべてをおまかせします」という意思表示をす